※原稿送り先＝大牟田市不知火町2丁目　三池炭鉱主婦会
※電話で知らせるとき＝市内3033・7140　炭鉱　474・528
※責任者＝文教部長　川畑信子

始まつた春季闘争
大幅賃上げと安保問題

家族時事問答

変わる生活様式

和男　このごろはまた新聞に春闘、春闘というのがさかんにでますね。

父　「また」はよかつたな。

和男　だつて組合は毎年春になると賃上げを要求するんでしようのり子　七千円も要求したところがあるつて新聞にでていたわ。

父　うん、ことしの賃上げはね〝大幅賃上げ〟ということなのだ〝岩戸景気〟などといつても、実際に職場で働らいている労働者への分け前といつたらとても少ないわけだね。そのくせ生活面では若たちがいつもうるさく「テレビを買え」などということもあるし。

のり子　だつてお友だちのところではみな持つてるから、つい――

父　そこなのだ。「お隣りはテレビを入れた、洗濯機を入れた」なんて、そのことではお母さんは年中井戸端会議で肩身のせまい思いをしているわけだが、それだけ生活の仕方（生活様式）が変つてきている。それに応じた生活程度を維持するためには、たとえ月賦でもなんでもお金がかかる。収入の方はさつぱりなのに、支出はどんどん増えていくということだ。

母　物価もずいぶん上つていますよ。ガス代が一月一日から平均十二パーセントはね上つたし、地下鉄運賃、電気料金、貨物運賃、パーマ代、ふろ代などが上るそうですよどれもほかの多くの商品に波及するおそれのあるものばかりーー。

出ししぶる資本家

のり子　〝岩戸景気〟などといつてもだんだん暮しはきつくなるみたいだね。小さい会社で働らいている人は大変でしようね。

父　ほんとだ。臨時工や社外工で働らいている人の数はますます増えているが、賃金の平均は三五〇円ぐらいがせいぜいだから、一カ月で一万円になるかならないかという額だ。とても家族を抱えて食べていけるものではない。しかもこういう人たちがたくさんいるということは「文句があるなら君たちはいつでも臨時工と変えられるのだぞ」という脅しを本工の人がかけられていることなのだ。そこでことしは総評が中心になつて全国一律八千円の最低賃金制の要求や、失業保険の増額、社会保障の要求をかかげて「失業と貧困に反対する全国大行進」が行なわれることになつている。これは臨時工や失業者の人たちの問題を全労働者の立場で闘おうということで画期的なことだ。

和男　それで経営者のほうの態度はどうなんですか。

父　資本家側は高姿勢だね。日経連では闘争のはじまる前から「企業はうんと金を蓄積して設備更新などやらなければならないからたとえもうかつても金を出すな」といつているのだ。そのために、労働者の賃金を一定枠にクギづけにして、労働組合の賃上げ闘争などという〝やつかい〟なことをやらせないために「安定賃金制度」という方法を強引に実施しようとしている。

大事な三池の闘い

和男　賃上げと安保の問題とは何か関係があるのですか？

父　なかなかむずかしいことを聞くね。実はそれが大ありなんだ新安保の本質が軍事同盟にあることはこれまでも話したが、そのホコ先は中ソと東南アジアに向つている。とくに経済的な面でいえば〝日米経済協力〟――アメリカ資本をどんどん導入し、その傘の威で力をつけ東南アジアに進出しようとしているんだ。だが経済進出するためにはどうしても品物を安くつくらねばならない。合理化と低賃金政策がそこから生まれる。だから、日本の労働者が低賃金に反対し大幅賃上げを要求して闘うことは、生活向上のためにはもちろん、安保改定の政策を打ち破る闘いの大事な一部でもあるわけだ

母　そういえば〝一万円生活〟で闘争している三池炭鉱は〝合理化反対〟でしたね。

父　三池の闘いは非常に大きな闘争になつてきている。最近は貯炭が少なくなつて、それをおぎなうため高いお金を出してアメリカから石炭を輸入するという話もある。炭鉱のたくさんの失業者が、妻や子どもを売つているという悲惨な状態なのにまつたくひどいやり方をするものだ。「合理化」というと聞えはよいが、事実はいつもこうなのだ。それだけに三池の闘いは日本のすべての労働者にとつても共通の闘いなのだよ。

和男　ほんとですね。

婦人デー五十周年

父　それから、これはとくにお母さんやのり子は知つていなければいけないが、春闘と平行して三月八日から第七回婦人月間が始まるね。

のり子　ええ、ことしはいろいろと行事があるようですね。

父　うん、婦人デー創設五十周年ということがあるからだ。ちようど五〇年前の三月八日、コペンハーゲンで開かれた婦人社会主義者の会議で、ドイツの革命家クララ・ツエトキンの提案によつて「婦人の権利を守るために、世界中の婦人がいつせいにたちあがる日」と定められたのが、婦人デーのはじめだが、「完全童貞」ということが世界政治の具体的な問題になり、婦人たちの切なる願いである「戦争がなくなるとき」が可能な見透しとなつたなかで、婦人たちは、声を大にして、平和と権利擁護を叫ぶことが大切だね。

三月のことば

国際婦人デー

三月八日は国際婦人デーで、ことしはその五十周年です。一九〇四年ニューヨークで「パンと参政権」を要求する婦人の集会がひらかれたのがはじまりですが、一九一〇年コペンハーゲンで開かれた国際社会主義婦人会議でこの日を「国際婦人デー」とすることがきまりました。この会議は〝同一労働同一賃金〟〝七時間労働制〟〝完全な母性の福祉保護〟〝労働者児童の国費による教育と給食〟をスローガンとしてかかげ、当時は婦人デーのスローガンになつていました。

日本では一九二二（大正十一）年、せきらん会や水曜会に結集した社会主義婦人たちが中心になり、〝種まき社〟の後援で東京神田のキリスト教青年会館で婦人の政治・社会・経済などの自由を訴える演説会を開いたのが最初です。

料理出品展開く
副食にあの手この手
（鷺分会）

一万円生活の台所を守るため、いま主婦たちはアノ手コノ手と知恵をふりしぼつて生活合理化と取組んでいる。

献立表をつくつたり、料理講習会をひらいたり……各分会で、それぞれ独自に計画を立て実施している。

緑が丘うぐいす分会では、二十一日午後二時から、副食の出品展をひらいた。各班から一品づつ出品十八点がズラリとならんだ。一日百円（五人家族）の副食費でどうしてうまく、栄養のある副食をつくるかが眼目とされている。分会では、とくに各支部の主婦会副支部長の出席を願つて、この出品の審査をしてもらい、このうちから七点を選出した。

この七点をこんど各班にその品目や、つくり方などを周知させて主婦が頭を悩ましている副食つくりの一助にしようというものである。

十一班の展示品を除いてみると、朝＝ミソ汁と漬物（アゲ6、ワカメ4）昼＝野菜の油イタメとおムレツ（ホーレン草6、卵30、人参1、ソーセージ10）夜＝サンマのふらいとフレンチサラダ（サンマ18、モヤシ9、キャベツ5、ミカン4、リンゴ5、ノリ2）の計百円となつている。――数字は金額――各副食にはイモをいろいろ工夫して料理したり、さまざまの工夫のあとがうかがわれた。

ある主婦は「一人で考えると、どうしても考えつかない。こんどのようにみんなが各班で考えてつくつていくと、いろいろ新しい考えが浮かんでくる」

また一人は「この料理をやつてみて、いままでたくさんの無駄をしていたことがわかり、ビックリした」と感想を述べていた。

一万円生活の台所を守る料理研究

日本の婦人運動の足跡
国際婦人デー五〇周年を迎えて

島津千利世

ことしの三月八日は国際婦人デー創設五十周年です。国際民婦連のザンテイ書記長は五十周年を迎えるに当つての報告の中で「国際婦人デーを祝いはじめてから、男子と同一の立場で闘う決意が一層増大している」とのべています。

二十世紀の初期から、婦人も生産にたずさわるようになり、婦人労働者の数は増したが地位はひくかつたため、搾取に反対する労働運動の中から始まつたことは、意義深い。

その後資本主義国の中で、働く婦人のエネルギーは高まり、第二次大戦は、婦人運動に転機をもたらした。それは労働婦人以外の婦人にも転機となり、とくに戦争によつて夫や子供を失つた婦人が、生活と平和を守る要求をかかげたちあがり、婦人の組織は町にも職場にもだんだん大きくなつています。

戦争の脅威をなくす共通の要求の中で働く婦人の組織は労働組合と一つになつて、経済要求だけではなく、労働者階級の解放という政治的要求をめざしています。働く婦人の自覚の一例として、大夕張の炭鉱婦人のことを伝えましよう。大夕張は三菱系のヤマとして戦時中は多くの朝鮮や中国の人たちを使つていましたが、過労と栄養失調のためバタバタ倒れました会社はその原因をペストのせいだといつわつて、消毒をしてみせることまでしたのです。耐えられなくなつて逃亡すると、大臣は清水谷という所で捕まつてしまい、課にされた上、両手足を縛られてさらされたり、水攻めにあつたりしました。日本人も強制労働という点では同じであつて、労働者も主婦も収奪に対しては深い憎しみを抱いていたわけです。戦後、革新同志会が作られる中で自主的に主婦会が作られ、これがのちに炭婦協に発展するのであるが、敗戦直後からの自覚として高く評価されねばならない事例です。鳴池炭鉱でも、還炭婦が主婦会を敗戦後すぐ作り、鉱長の所へ押しかけ米を出させました。

鉱婦協がやがて生活を守る中核となるこの発展の過程は、ある意味では、歴史的必然性をもつています。すなわち、生活を守る闘いは、平和を守る闘いに発展せざるを得なくなつていますし、広範な平和への要求にもとづいた運動の中で炭婦協の運動は、いまや社会主義をめざす意識的なものとなつています。社会主義をめざした婦人運動は、戦前に見られない戦後の特徴です。戦前は婦人参政権の運動と、社会主義をめざすわずかの婦人運動が並行しており、ほんの一部で交渉していたにすぎませんでした。婦人参政権は封建的男女不平等に反対するのが中心思想であつたが、社会主義をめざした労働婦人の運動は、資本主義的男女不平等の撤廃が中心です。

戦後は婦人参政権がかちとられた結果、子供、生活、平和を守る大衆運動の核として、社会主義をめざす婦人運動へ成長してきているのです。そして労働婦人の運動が組織的に、大衆運動に大きく力ミ合つているのがその特徴です。この大衆運動の中から、目標のはつきりした階級運動が大きくなつており、自然成長的であつても、必ず大衆の中からリーダーが生れてきています。意識的な働きかけがあればなおさらです。これは一つの原則であり、この原則の中から、新しい法則が生み出されていることを、この歴史の転機に当つて、はつきり自覚すべきでしよう。労働婦人の地位を一層低めようとする企みこそ、安保と合理化体制の一部であり、価値を生みだしています。五十年前もいまも収奪されている婦人の解放のためにたたかつてきたし、たたかつているのです。（しまず・ちとせ氏は婦人問題研究家）

ある日の情宣

宮浦・通松　平畑信子

立春も過ぎてからからかな春日和のある午後、組合情宣に出席した炭労の闘争委員と本所支部長の情宣である。

今日は暖いせいか、また企反闘争で悪らつな会社にたいする怒りの団結のためか、みなの踊が闘志に燃えて生き生きとしている。参加者も多く集会所にところせましと一ぱいである。

炭労闘争委員の方は、王子闘争での第二組合結成と、闘争終了後の実態を話された。

第二組合の問題では、会社の悪らつな切りくずし、ダンアツ、現ナマをとばしての組織破かいなどいろいろな話を聞かされ、いまさらながら組織分断の恐しさや団結の意義深さを痛切に感じた。

資金カンパも絶評、炭労、三鉱連と今次の私たちの闘争に支援下さつていることをきき、心から感謝し、この支援カンパに答えて、最後の最後まで闘う決意を新にし全労働者の矢面に立つて前進することを心に固く誓つた。

つぎに本所支部長の話であつた一時間三十分をみな熱心に聞いた。情宣内容も、今まで何度も聞いたことではあつたが、新たな闘志をかき立てていつた。

支部長は冒頭に「いつも組合情宣はストの話しで面苦しいことばかりである。映画をするのだつたらみなさんにも喜こんでもらえるだろうが、今次の闘争、また将来のためには組合情宣もしつかりと胸にきざんでもらいたい。」時間三十分をみながねむけをさますように話すから協力してほしい」といわれた。

私は感じた、今までの集会はいつもオツトメ集会ではなかつたかと。

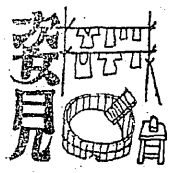
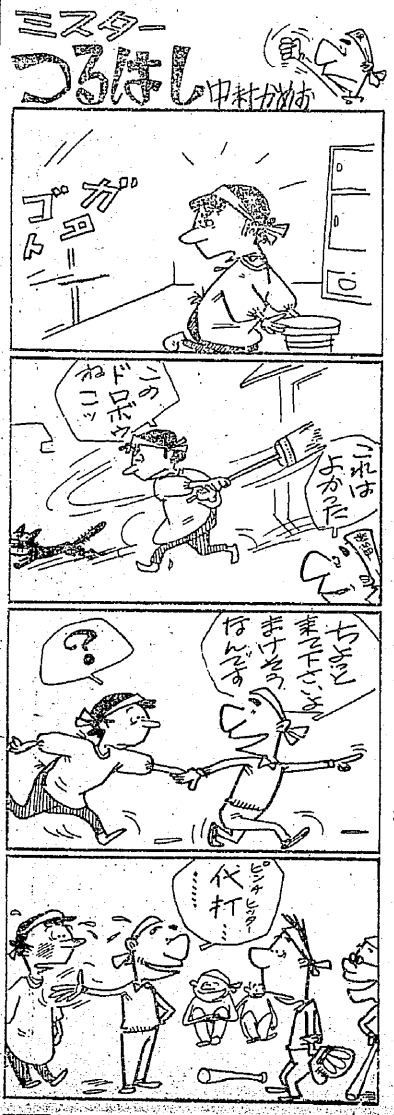
私語が多かつたり、また途中で中座をしたり……でも、今日は誰一人として立帰る人がなく、全員最後まで熱心に聞いた。

おもしろく情熱のこもつた話にみなは笑つたり、感激したり、また泣いたり、熱心に聞き入つていた。

みなが一かたまりとなつて熱中するその姿、その心を見て、これだ!!今のこの団結の姿を闘争に打ち込んだら、何も屈するところはない。会社のマス・コミも宣伝もこの団結の前には、どんな手段を使おうと何の恐れるところもないこの団結一致で闘争も打勝てるのだ。主婦の台所も万全だと痛感した。

闘争資金も全国のなかまの援い友情により心配ないとのこと、全国のなかまよ有難とう。勝利の日を真近かに迎えるだろうと自信満々である。

各組織のオルグの来山も後を断たない。私たちは闘争の真実をこの同志たちにうつたえ、理解を深めて貰い、一日も早く勝利のエイカンをかざらなければならない。

私たちもこんどオツトメ情宣は止めよう。そして一回でも多く聞き、闘争状況をよく知り、長期闘争を勝利へ導かねばならない。拒否者の方もみんな元気で頑張つておられる。

私たちも隣近所仲良くはげまし合い、統一を乱さず勝利まで互いに頑張ろう。やがて笑顔で拒否者を職場に送れるであろうその日を祈つて……。